

茨城県

育成会だより

第 130 号

発行日 平成 28 年 12 月 10 日
発行所 茨城県手をつなぐ育成会
編集局 広報委員会

〒310-0851

水戸市千波町 1918

茨城県総合福祉会館内

☎ 029-243-3838

FAX 029-243-3854

URL: <http://business4.plala.or.jp/iibaikul/>

e-mail: iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



常陸太田市手をつなぐ育成会

会長 菊池 均

当会のメンバー楽しんでしよう。一年前より計画していた、合併一〇周年記念事業の第一弾、新幹線での松島への旅。新幹線が飛行機を検討しましたが、先立つものがどうしてもたらず、宇都宮まで常陸太田市の福祉バスを利用して、松島への新幹線の旅。超一流のホテル？に泊まり、大宴会、看板目立つでしょう。お母さん方には、「あの写真が出るの」と、不評ですが、皆さん良い表情していますよね。前列左のじっちゃん、なんとまじっまらない格好で申し訳ない。

当会は、合併前は、常陸太田・金砂郷・水府・里美の四地区団体で、一番古い団体は、昭和五六年度設立で、歴史は古いのですが、それぞれ地域の慣習等の違いから、運営はかなり苦労がありました。ただそのことを成し遂げてきたことと、会員の協力があつたお蔭で、地域福祉事業の半額助成制度、他地区に誇れる移動支援事業など、それなりの福祉団体の役目は果たせたのではないかとひとりがりかもしませんが、多少の自負はあります。今後当会は、育成会全体の悩みですが、新しい会員が増えないことの問題があります。このことは、このまま行くと福祉団体の力が弱くなり、行政の予算ありきの波に押しさらされ、とんでもないことになるのではないかと危惧しております。子どもより親が先に死ぬことは自然の摂理。皆さん共通の悩み、とにかく一人一人が大変でも育成会は重要な組織、そのことを改めて確認することが大切かなと思います。



この印刷物は共同募金配分金の一部が使われています

第54回 手をつなぐ育成会茨城大会を開催

小島氏“講演”、磯山氏“ライブ”で盛り上がる

県育成会の最も重要な行事の一つである「第54回手をつなぐ育成会茨城大会」が、恒例の水戸市千波町の県民文化センターで、10月20日(木)10時から約2時間半にわたり開催されました。大会スローガンは、昨年に続き「かなえよう 共に生きる 平等な社会」一。

冒頭、総合司会の嶋田副会長が、まだ事件の余震の続く、7月26日の相模原市の「津久井やまゆり園」の犠牲者とそのご遺族に対して全員の黙祷を求め、それから式典に入りました。

まず、主催者側あいさつとして、矢野会長が、やまゆり事件に関し心からお悔やみ申し上げます、と述べたあと、「鈴木前会長の長年の多大な貢献に対し深く感謝するとともに、前任者を継いで全力でがんばります。近年の障害者に関する法整備に伴い、県育成会は県の委託を受けて「障害者何でも相談室」や「茨城県障害者権利擁護センター」等の相談業務を担当しそれぞれの相談員を置き、業務を推進してきた。今後、一段と障害者の支援と会の活性化に取り組んでいきたい」と力強く“宣言”されました。そのあと、県知事表彰(1名)・育成会会長表彰(6名)に移りました。

続いて、来賓祝辞として、橋本県知事が次のように語られました。

- ・障害者差別解消法などの施行により法整備が進むなか、やまゆり園の大事件が発生して遺憾でならない。共生社会が一段と進むよう、各種の取り組みを進めたい。施設の整備、防犯面の強化にも努めていく。あすなろの郷の整備も検討中である。
- ・県が育成会に委託している障害者権利擁護センター・障害者なんでも相談室・障害者差別相談室の利用も逐次増加して、10年前の年間約1500件から、現在では2100件程度になってきている。
- ・平成31年の全国スポーツ大会の茨城開催を間近に控えており、東京パラリンピックへの意識も高まりつつある。
- ・県として、各種の施策を力強く実施・推進してまいりたい。

秋葉水戸市副市長から、高橋市長のメッセージとして、「ノーマライゼーションの理念に基づき、市の第4次障害者計画を立案、昨年から実施に入っている。これまで以上に、安心して住める街にするため、各種施策の実施とともに、障害者関係の相談事業にも力を注いでまいりたい」と伝えられました。

来賓紹介のあと、受賞者を代表して、本人功労賞の本間菊枝さんが、これまでの16年余にわたる就労について応援してくれる関係者への謝辞とこれからの決意を、しっかりと述べられました。

式典の最後に、飯村副会長が大会宣言(案)を朗読し、全員の賛同でこれが採択され、一種さわやかな雰囲気の中、大会の前半を終了しました。



本間菊枝さんの謝辞

楽しく役に立つ育成会活動をめざして

栃木県手をつなぐ育成会 会長 小島 幸子氏

栃木県育成会会長が語る 一会長は“バトカーで救急車”

講演会は、栃木県手をつなぐ育成会会長小島幸子氏によるものでした。講演そのものは60分ほどで決して長いものではありませんでしたが、その話す内容の充実さ、おもしろさ(ユーモアたっぷり)、斬新さなどから、聞くものに深い印象と感動を与えるものでした。

小島会長は、現在54歳。早産で2キロに満たない長男良太くん(現在の洋服サイズは6L!)の誕生後、養護学校(当時の)PTA会長を務め、2002年に栃木市手をつなぐ育成会の会長となり、2013年から、市長と兼任のまま、栃木県手をつなぐ育成会会長を務めています。

小島会長のレジメから、いくつかピックアップしてご紹介します。

1. この会は、単に悩める人たちが集まって慰め合うだけのおセンナなものであるべきではない(約60年前、育成会草創期のある幹部の発言)

2. 組織力の強化:

・良い組織(チーム)は、仲良し集団ではない。

- ①リーダー自身が変わることに本気になる
- ②リーダーであってもスーパーマンではない
- ③権力ではなく信頼が大切
- ④会員の声を傾聴しよう
- ⑤リーダーは説明と説得業である
- ⑥リーダーは調整役でもある

3. 栃木市育成会の現況:

・人口約16万人 育成会会員数70名(内 半数弱が特別支援学校保護者)

・会員数の維持と拡大法:

- ①何と言っても口コミが一番!
- ②やっている事業は、他の育成会と変わらない
- ③小さなグループでの懇談会(ランチ)、施設・工場見学が最近のトレンド
- ④「困った時の“小島さん”、小島さんはバトカーで救急車」
- ⑤その他、その他、etc...

改めて、講演は活字やレジメで読む・見るものではなく、実際その場でじかに聞く・見るものだと、実感しました。ぜひ、来年の茨城大会には、各単位育成会の役員など、できるだけ多くの方々に参加出席して、得たもの、学んだものを、自分の育成会に戻りどう生かしているか、考えて行こうではありませんか。



「そして未来へ」—磯山純さんが歌う

最後に、“シンガーソングライター”磯山純の登場です。

司会者の紹介で磯山さんがギター片手に舞台へ。あいさつもそこそこに、いきなり2019年のいきいき茨城ゆめ国体のイメージソング「そして未来へ」を絶唱、まず会場の観客を圧倒しました。会場は大拍手で応えます。続けてFather(ファーザー)を、格調高く歌い上げます。この曲は、成長してから父の苦勞を知り、それを讃える歌として、自立をテーマに作ったとのこと。

磯山さんは、水戸市出身で、現在「みとの魅力宣伝部長」を務め、「IBS茨城放送レギュラー番組(磯山純のLove yourself)」に出演、さらに2019年のいきいき茨城ゆめ国体イメージソング「そして未来へ」を担当するなど、活動の幅を広げつつある、新進のミュージシャンです。この6月には、第20回水戸観光協会「観光事業功労者」表彰を受けています。



3曲目として、ガンバっている方々に届ける、お気に入りの「虹は雨の上に」を歌い上げ、会場を感動の渦に巻き込みました。

そして、最後に、磯山純さんのギターと歌声に合わせ、会場の全員で「花は咲く」を大合唱して、茨城大会のすべての行事を終了しました。

全国大会や関ブロ大会に参加してみませんか!!

県手をつなぐ育成会 副会長 中村 正子

平成28年7月2日～3日、神奈川県民ホールやメルパーク横浜、ワークピア横浜等を会場にして、第3回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会神奈川大会が盛大に行なわれました。

1日目は、「誕生した大切な命だから一人ひとり充実した一生を!」のメインテーマのもとに、次の4分科会と本人部会が行なわれました。

- 第1分科会「大切な命を授かって生まれる」
 - 第2分科会「インクルーシブな社会で育つ」
 - 第3分科会「自分らしさを発揮して生きる」
 - 第4分科会「成人後の人生を自主的に暮らす」
- 本人部会 「ぶっちゃけトーク」



全体会での連合会久保会長のあいさつ

分科会終了後、人形劇や「サルサガムテープ」のライブにスペシャルゲストのミッキー吉野氏を迎えて、「みんなでセッションしよう!」の呼びかけどおり、音の出る物を持ち寄り、音を出しながら歌って踊って...会場全体がひとつになり楽しい時間を共有しました。

音楽っていいなあ...と感じた瞬間でした。

2日目は、全体会と有森裕子氏の記念講演「よろこびを力に...」がありました。

会員の皆さんも、家庭の事情もいろいろあると思いますが、ちょっと小旅行気分、全国大会や関ブロ大会に参加してみませんか?



横浜みなとみらい

第5回権利擁護セミナー (全国手をつなぐ育成会連合会主催) 開催される

県手をつなぐ育成会 副会長 稲川 栄

11月8日(火)、富山市の富山県総合福祉会館で連合会主催のセミナーが開催されました。

「親と知的障害のある子の高齢化に向けて」への取組みの報告集の説明が、権利擁護センター運営委員細川瑞子氏よりありました。

以下、主題について報告します。

- 第1章 親の高齢と子どもの長命、加齢から見える課題。
- 第2章 高齢の親が、子どものためできること。
- 第3章 成年後見制度は今、どうなっている? 期待・現状・課題。
- 第4章 「意志決定支援」の理解と推進。
- 第5章 改めて、あなたの子どもの成年後見が必要か「考えてみましょう」。
- 第6章 「成年後見が必要」と思われた方に。
- 第7章 支援を受けながら、地域での生活を続けるために、意思決定と特定贈与信託。
- 第8章 各地育成会からの意見と、さまざまな試みと実践。

知的障害者本人にも、支えている親にも高齢化の波が押し寄せている昨今、「いつかは子どもを社会に委ねていく」親として、「今のうちにやっておけることはないか」と、情報を求めている親が多いと思います。

親や本人が不安に思っていることを整理し、考える材料を提供し、親亡き後も、本人のより良い暮らし(「生計」も「生活」も)が守られていく道筋が見えるようにしたいですね。

第5回 権利擁護セミナー (富山県)



開催日時 平成28年11月8日(火) 10:00～14:00

開催場所 富山県総合福祉会館(〒930-0854)

〒930-0854 富山県富山市富山町1-1-1 TEL:076-422-1141

主 催 全国手をつなぐ育成会連合会

「障害者差別解消法の合理的配慮ってなあに？」

第2回研修会に参加して

桜川市手をつなぐ育成会 会長 大島みのる

権利擁護委員会の第2回研修会が9月21日(水)に茨城県総合福祉会館において開催されました。

講師は、ご自身も障がい当事者であり、NHK EテレハートネットTVの出演、茨城新聞の連載等でも活躍されている茨城大学講師の有賀絵里さんでした。

障がい当事者である有賀さんの話す言葉はとても重みがあり、私を含め多くの参加者は「私達親は何をすべきなのか?」、「私達が今までしてきたことは障がい児(者)に本当に必要な支援なのか?」と言う事を考えさせられました。

有賀さんは「公共機関を使えば使うほど理解が深まる」と話されてました。私自身日々の生活の中で障がいの理解・啓発をととても大切にしております。家族が外に向かって行動するのはとても勇気がいる事ですが、我が子を地域で生活させたいと思うのであるなら、どんどん子どもと一緒にお店にいたり、公共機関に乗ったり、また障がい者の会だけでなく他の健常者の方との交流の機会をあえて作る事が大切なのではないのでしょうか?

有賀さんは「思い込みを捨てる(やめる)、一番苦しいのは当事者!の原点にもどる」と話されてました。私達はいつ物事を自分の生きてきた経験値や感情論でとらえがちです。一番大切なことは、どんな有名な先生の言葉や本よりも、親や周囲の人間がまずはよく本人を見る(観察する)ことではないのでしょうか?どんな時に嬉しいのか、どんな時に困っているのか?と。子育ては、健常であろうが障がいであろうが、基本は同じだと思います。

多くの親は子どもに当たり前前の生活、当たり前前の人生を願っていると思います。そのためには、まず私達は当たり前前の生活、一緒にご飯を食べる、一緒にテレビを見る、子どもがゴロゴロ寝転がって何を考えているか分からない時は一緒に寝転がる、そういう姿勢がないと我が子の本当の思いがわからないのではと、有賀さんの言葉から感じました。



第1回本人交流会に71名参加!

実行副委員長 清水 学

平成28年8月28日(日)土浦総合福祉会館(ウララビル)4階にて本人39人支援者32人の参加で第1回本人交流会が開催されました。午前中本人達は、5つの「趣味トーク」をしました。動物・アニメ・音楽・ゲーム・スポーツのグループにそってやりました。「動物」トーク担当は自分、「アニメ」が深谷実行委員、「音楽」が真行寺実行委員、「ゲーム」が佐藤実行委員、そして「スポーツ」が大竹実行委員でやりました。伊藤実行委員長は、みんなのまとめで見回りました。休憩をはさんで、午後の「人間スゴクゲーム」で緑・赤・黄色チームに分れてサイコロ6面式のゲームでやりました。先にゴールしたチームが優勝するゲームです。この「人間スゴク」は私たち県本人部会が考えて作り上げたゲームです。この日支援者は、別室で最近起こったばかりの相模原事件の話をしました。



障害福祉サービス利用者の苦情はどこへ？

常陸太田市手をつなぐ育成会 会長 菊池 均

みなさんは、「障害福祉サービスの契約書」の内容を、事業所から、読み聞かせられましたか、または後で読んでくださいでしたか。いずれにしても契約書条文中、事業所側から契約の解約は、事業所の閉鎖・縮小等々やむを得ない事情がある場合、利用者に対して、30日間の予告期間をおいて理由を示した文書で通知することにより契約を解除することができます、とあります。

ここでこれから心配なのは、いま多くの福祉事業所が、もろもろの社会環境から、慢性的な職員不足による運営の困難、利益率の悪いサービスの淘汰、その他事業者側の理由から、利用者が契約解除を伝えられたとしたら、その時点で、契約うんぬん以前にその解約通知に不満を持ちながらも、泣き寝入りであり、特に知的障害者の特性で、簡単に事業所を変えず大変困ることになると思います。

今回、このような事例が発生いたしました。某事業所からこのたびグループホームを開設のため、日曜日ホームの利用者の移動支援のため、来月から貴方の日曜日のサービスが出来ませんので解約をいたしますとの通知が10日前にありました。

皆さまは、どう対応しますか？私は、今回は軽度のサービスであり、他の事業所利用で解決できましたが、グループホームなどその生活に重大な影響を及ぼすサービスであれば、大変な状況に陥ります。

虐待・権利・差別・相談等多くは各市町村の窓口になっているようです。

そこで、今回私は、相談窓口福祉サービス事業所許認可の行政責任のあり方を、解約通知書と契約書を提示して、苦情を伝えました。

後日、事業所から、お詫びの文書が届きました。今後もこのような問題が発生する恐れは何処にも潜んでいると思います。

総合福祉法の中で、さまざまな法律が出来ておりますが、今回のような事例またその他のさまざまないいにくい問題でも、その時の解決は困難でも、その制度の普及の上で、虐待・権利・差別・相談等の窓口を積極的に利用して多くの情報の提示をすることにより、福祉環境に緊張感が生まれ良いことと私は思います。

特別支援学校紹介

茨城県内の特別支援学校を順次紹介しています

県立友部特別支援学校（笠間市）

本校は、笠間市東部に位置し、緑の木々に囲まれた閑静な環境にある学校です。茨城県内の県立の知的特別支援学校としては最も歴史があり、昭和45年に小学部・中学部が、翌年の46年に高等部が設立され、今年創立47年目を迎えます。今年度は、小学部(69名)、中学部(56名)、高等部(96名)計221名が在籍しています。また、本校には、寄宿舎が併設され、今年度は、29名の児童生徒が利用し年齢の異なる友達と楽しく生活を共にしています。

小学部は、身の回りの基本的な生活習慣の定着を目指した活動やいろいろな体験学習をとおして、興味や関心の幅が広げられるような取り組みを行っています。中学部は、職場見学や高等部の作業の見学をしたり、作業学習をとおして、働く意味を知るとともに対人関係で必要となる力などについても大切にしながら学習をしています。高等部は、1学年30名前後で、将来の自立と社会参加に向けて、普段の作業学習や校内作業実習・現場実習などに取り組んでいます。

今回は、交流及び共同学習の取り組みとして小・中学部で実施している学校間交流、寄宿舎で実施している地域との交流、PTAが計画・運営し実施した友フェス2016の様子を写真でご紹介します。

【小学部 学校間交流】

1・2年生、3・4年生、5・6年生が地域の同年代の児童と年間2回交流を実施しています。



【寄宿舎 地域交流】

中央看護専門学校の学生さんと年間2回交流を実施しています。



【中学部 学校間交流】

友部第二中学校生が本校に来校し、レクリエーションを中心に交流が実施されました。



【友フェス2016】

夏季休業中の8月5日(金)に地域の方々の協力を得て、楽しい催しが実施されました。



2月からの行事予定

月	日(曜日)	行事予定
2月	17(金)	知的障害者相談員研修会(大研修室)
		茨城県特別支援教育推進連盟理事会(内原特別支援学校)
3月	1(水)	研修委員会研修会(大研修室)
	10(金)	「育成会だより」131号発行
	15(水)	平成28年度第5回理事会(小研修室A)

ティータム

「つかの間の至福」

水戸手をつなぐ育成会 川内 幸子

平成28年7月2日(土)～3日(日)、神奈川県民ホール・メルパルク横浜の全国手をつなぐ育成会連合会全国大会神奈川大会に参加し、横浜に宿泊しました。

「横浜」といえば、山下公園、中華街、外国人墓地、横浜ベイブリッジ、横浜レンガ倉庫、横浜ランドマークタワー等を思い浮かべます。

昼間の横浜は見慣れています、今回一度は泊まってみたい、超高層ビル横浜ランドマーク内にある、横浜ロイヤルパークホテルに宿泊しました。

夜のバス遊覧の後、57階のホテルの部屋へ入り窓からの夜景に「びっくり!!」

大観覧車が目の前で大輪の花火のごとく七色に輝き、ベイブリッジの青色のイルミネーションは、見たこともない別世界にいるような感覚でシャッターを押し続けました。

最もながめのよい部屋で仲間と缶ビールで乾杯し、語る一夜は至福の時間でした。

翌早朝は時間とともに空が明るく、日の出をながめながら力をもらい、「今日もがんばろう!!」と。

28年度福祉表彰者

第3回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会神奈川大会

(7月2日(土)～3日(日)・神奈川県民ホール)

全国手をつなぐ育成会連合会会長表彰 和田 澄子(茨城県手をつなぐ育成会理事)

第66回茨城県社会福祉大会

(10月28日(金)・茨城県民文化センター大ホール)

茨城県知事表彰 社会福祉団体関係者 関 昭雄(日立市手をつなぐ親の会顧問)

社会福祉自立更生者 永山 真弓(牛久市手をつなぐ育成会)

潮田 洋一(日立市手をつなぐ親の会)

白土 悟志(日立市手をつなぐ親の会)

橋野 将(牛久市手をつなぐ育成会)

茨城県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉団体役員 君山 秀(日立市手をつなぐ親の会幹事)

岩崎 信(日立市手をつなぐ親の会幹事)

編集後記

今年は自然災害の多い年でした。台風・大雨・地震と日本国中を暴れ廻りました。その原因は地球温暖化などといわれていますがハッキリしていないように思われます。

災害の中に障がい者がまきこまれていること、痛ましく残念でなりません。

これから寒さも厳しい季節を迎える時。一刻も早く元の生活に戻れますよう切に願わずにはられません。

(稲川 栄)